

民主青年新聞

DEMOCRATIC YOUTH NEWSPAPER

みどころ

たばこの害、正しく知って考えよう
新政権発足、行き詰まり変わらず
賃上げと一体に、労働時間の短縮を

6、7面
3面
10、11面

▶ ホームページ www.dylj.or.jp ▶ Eメール minsin@dylj.or.jp

歴史的な政治戦 問われる「二つの異常」

日本共産党の躍進で政治に希望を

「財界中心」「アメリカいいなり」という「二つの異常」を特質とする自民党政治の行き詰まりが、正面から問われる10月の政治戦。青年は自民党政治をどう見ているのか、街頭で取材を行いました。2面では、政治的模索を深める青年にとって、日本共産党の躍進がどのような展望となるのかを日本共産党青年・学生委員会の坂井希さんに聞きました。

(街頭の青年は仮名、塩田悠玄記者)



▲自民党政治に代わる新しい政治の展望を示してきた民青同盟の活動。左上から時計まわりに、若者憲法集会が呼びかけた「敵基地攻撃能力保有・大軍拡に反対する青年の草の根ネットワーク運動」での宣伝のようす、6月30日に開催された若者憲法集会後のデモでコールする参加者、会場が満席となった若者憲法集会のメイン集会のようす

自民党に「期待できない」ときっぱり

渋谷の街頭で、「これまいる。アルバイトの給料も上がってはいらぬけど、もううか青年に聞きました。取材に応えた山下咲さん(大学1年)は、「将来、厳しい」と赤井さん。「小学校教師になろうとしていた。ただ、教師は長時間労働や、残業代がまったく出ないと聞いている。一生懸命働いてもその分のお金が出ないのだから、海外旅行にいったらいい」と話します。自民党の下で、出された懸念の改善が期待できるかを聞く。山下さんは「期待できない。今までもあんまり自民党が変わってきていないから」ときっぱり答えました。

赤井由美さん(高校2年)は、「自分が今までちゃんと生きてこられたから、ちゃんとしてくれるのか。自民党の政治は悪くないかと思って話していました。あと話して、物価高騰など身近な生活の中で苦勞していることはいかなく、学校の自販機で売っている水が前は50円だったけど、値上げて60円になった。学校みんなが怒って

いる。アルバイトの給料も上がってはいらぬけど、もううか青年に聞きました。取材に応えた山下咲さん(大学1年)は、「将来、厳しい」と赤井さん。「小学校教師になろうとしていた。ただ、教師は長時間労働や、残業代がまったく出ないと聞いている。一生懸命働いてもその分のお金が出ないのだから、海外旅行にいったらいい」と話します。自民党の下で、出された懸念の改善が期待できるかを聞く。山下さんは「期待できない。今までもあんまり自民党が変わってきていないから」ときっぱり答えました。

赤井由美さん(高校2年)は、「自分が今までちゃんと生きてこられたから、ちゃんとしてくれるのか。自民党の政治は悪くないかと思って話していました。あと話して、物価高騰など身近な生活の中で苦勞していることはいかなく、学校の自販機で売っている水が前は50円だったけど、値上げて60円になった。学校みんなが怒って

っています。「財界中心」もなかなか改善はできないがもたらした低賃金、長時間労働の問題を街頭の青年はどう考えているのでしょうか。

取材に応えた会社員の村田優里さん(24)は、「自民党が問題を改善するの難しい」と話します。自民党ではない政党が政治を行なえば改善すると思うかと聞くと、「どこがやっ

「戦争には関わりたくない」

この間、集団的自衛権行使容認、相手国の領土を攻撃する長射程ミサイルの配備、GDP(国内総生産)比2%への大軍拡、武器輸出の解禁、日米の指揮・統制の一体化など、これまで憲法9条の下で「できない」とされてきたことが、次々に強行されています。「アメリカいいなり」の右破新体制の下で、この暴走が加速する危険性について街頭の青年に聞きました。

大阪で顕著な「維新離れ」

自民党政治が行き詰まる下で、同時に維新の会への期待も青年の中になくなってきていると、園部真拓(園部府委員長)は、「維新離れ」が顕著だと話します。園部府委員長は、「維新は駄目だから維新を応援している」という声も聞かれます。園部府委員長は、「維新は駄目だから維新を応援している」という声も聞かれます。

「敵基地攻撃能力保有・大軍拡に反対する青年の草の根ネットワーク運動」での宣伝のようす、6月30日に開催された若者憲法集会後のデモでコールする参加者、会場が満席となった若者憲法集会のメイン集会のようす

長年のたたかいによって最低賃金が時給1000円を超えたとはいえ、到底生活が成り立たない社会にな

警備会社に勤める藤野綾もあつたが、おおもとをたどれば、大阪万博をはじめ

でも求められている」と話

れないと割に合わない」と話します。米国の戦争や武力行使に関わっていくこと自体をどう思うか聞くと、藤野さんは「関わっていいこと自体はしないほうがいいかも。戦争にはできないだけ関わりたくない」と答えました。石破首相が掲げる日米軍事同盟強化路線か、対話による外交努力で平和をつくる道のどちらがいいと思うかについても聞いたところ、藤野さんは「もちろん武力じゃない方がいい。でも、国際情勢への不安もある」と答えました。

でも求められている」と話